

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901175		
法人名	株式会社コスモス		
事業所名	グループホーム太陽(やさい通りユニット)		
所在地	旭川市東旭川町共栄29番地の12		
自己評価作成日	令和3年1月5日	評価結果市町村受理日	令和3年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan_i=true&ligvosvoCd=0172901175-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景の広がる場所にあり、また広い畑などでご自分で菜園を行いながら、ゆったりと生活出来る事
入居者ひとり一人が自由に過ごされ、笑いの絶えない生活を送っていただいている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は旭川市の郊外にある住宅街に立地し、広大な敷地内には広い花畑や野菜畑、花壇があり、それらは利用者の目を楽しませ生活に彩りを添えています。また、大雪山連峰が眺望できる自然豊かな環境にあります。毎年春先には、早朝から地元住民が耕運機で敷地内畑の土起こしを行っており、事業所は感謝の意を表しています。収穫される多種多様な野菜は、様々な料理に生かされ利用者の食事を彩っています。コロナ禍により運営推進会議は書面会議とし、事業所の現状報告、介護や感染症対策への取り組み等を議事録にまとめ、加えて全体会議のレジメを添付してメンバーに配布しています。コロナ禍により面会自粛中ですが、家族には毎回、個別のお便りとして、写真と日常生活、健康状態などきめ細やかに報告し、利用者の現状を共有しています。職員は、施設長の助言の下、さらなる知識や技術の習得に向け自己研鑽に努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない			↓該当するものに○印	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「太陽のケア」を理解はしているが実践において改良の余地がある 理念に関して管理者、職員間での話し合いをもっと必要であった	利用者を主体としたケア理念を事業所内に掲げ、職員のみならず外部の方々にもケアの基本姿勢を示しています。施設長は新人研修や会議で理念はケアの根幹であることを説明しています。	地域密着型サービスの意義の確認と理念の見直しにより、さらなる共通認識への取り組みを検討していますので、その実行に期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への行事参加や町内清掃の参加等に限定されていた。地域住民からは畑の耕地や作物の収穫など支援を頂いている	コロナ禍により積極的な地域交流は自粛しています。町内会活動も減少気味ですが、周辺の清掃は利用者と参加しています。毎年、地元の方々が早朝から耕運機を運転して500坪の畑を耕しており、多種多様な野菜が採れています。近くの保育園との交流を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の場においてグループホームの役割、認知症介護の実際など話をし理解を得るようにしてきた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や有識者の参加を頂き、グループホームの現状報告や介護に対する要望、アドバイスを得ている	現在は書面会議とし、利用者の状況や活動内容、介護に関する今後の取り組み、事故やヒヤリハットの原因と改善等を議事録でメンバーに報告し、意見を聴取しています。感染予防対策への取り組みに労りの言葉が寄せられています。	会議の活性化に繋がる参加メンバーの拡大を検討していますので、その取り組みに期待します。加えて事業所内に議事録の掲示と家族への送付についても検討が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営に関することや、介護の実態に関しての相談に乗っていただいている	施設長は、重要案件や懸案事項の相談時は担当窓口に出向き、得られた意見を運営の向上や業務改善に生かしています。空き情報や利用者の状況確認等は、Faxや電話等で情報を共有しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等においても、身体拘束について話し合いを行っており、身体拘束による弊害などについて検討しており、拘束を行わないケアに取り組んでいる 拘束と思われる行為に関しては都度指摘し改善している	身体拘束等廃止に向けてマニュアルや指針の整備、身体拘束ゼロ推進委員会や内部研修、勉強会を適宜開催し、職員の共通理解を図っています。施設長は、業務上や事故・ヒヤリハットの事例を基に注意を促しており、正しい理解に導いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等において各自学ぶとともに、全体会議において話し合う機会を設けている ネット学習も実施		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となり得る入居者もいることから、他事業所などからの情報や、制度についての理解を高める学習を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面で必ず説明をしている。 入居後も疑問点など話し合うように努めている 家族への説明は複数で行うようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度、ご家族あるいは利用者とは話し合いを行い要望等を聞くようにしている また、全体会議で家族の要望を取り上げている	玄関での面会や利用料の持参時、電話等で家族の意向を傾聴しています。家族から運動機能維持の要望があり、廊下の手摺り等を歩きながら拭く作業を立案しています。幅広い意見が得られる家族会の開催を検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や主任会議等において職員の意見を取り上げ反映させるようにしている	職員は各業務を分担し、さらに事業所企画のネット学習等で資質向上に努めています。指導的立場の職員は、業務内や都度の個人面談等で職員の提案を聴き取り運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業条件の改善や、勤務評価など主任クラスの協力を得ながら改善してきている また、ネット学習により介護技術の向上を図っている、研修にも参加している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護資格の取得に援助するとともに、ネットによる研修にも取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	現在は交流機会が減ってきているが、研修などの参加により他同業者との交流を図ってきた		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状態を把握し、急激な変化が生じないように配慮している ときには、ご家族の協力を得るようにもしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、や意向についてよく聞くようにしている また、逆に職員が相談するケースもある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の情報を得、優先すべき支援は何かを職員間で検討し対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同で生活するという意識を持つよう心掛けている 声掛け等においても気を付けるようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の利用者の様子を都度お伝えし、ご家族の考えなども反映させながら支援するようにしている 家族とのTV電話など利用して協力を得ている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話、テレビ電話等による関係維持に努めている	利用者は、家族や知人と窓越しでの面会でホッと顔を見せています。他にも、電話やテレビ電話、手紙や年賀状の取り次ぎを行うなど、馴染みの方々との絆を大切に支援に努めています。自肅以前は、職員や家族と馴染みの場所に出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が協調して生活できるよう配慮していくとともに、問題点があれば改善していく孤立させないように対応していく 座席などにも留意している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族等とは接触を持つようになっている		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の生き方に対する考え方などを把握するように努め、それぞれのように対応するか検討をしている 本人との話し合いも行っている	利用者の意向や要望は、日常的に傾聴したり、雰囲気から推し量っています。入浴時は本音が聞けることも多く情報を共有し、会議等で解決策を検討しています。数名の利用者が野菜作りを希望しており、各自に畑を提供する予定です。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も本人やご家族から生活など状況を得るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況の把握といろいろな現象に対する分析を行い会議等で話し合っていく		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人にとって、何が必要な支援なのかを検討しながら計画の作成に取り組んできた 全職員でモニタリングを行うよう改善してきた	ケアプランは、事前に得ていた利用者や家族の要望に沿って作成しています。毎月の会議で確認していた利用者の現状と医療従事者の意見を踏まえた計画作成者の原案を、時には家族の参加も得て会議で協議しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録により日々の状況を他職員と共有するよう努めている モニタリングにも反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じた、支援を行ったり、ご家族の希望にできるだけ沿った支援が実現できるよう行ってきた		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会などの協力があり、安全な生活はできている 地域資源の活用までにはなっていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に関しては利用者、ご家族の要望をベースに訪問診療等に対応している 訪問診療以外の受診は全面的に介護職員が支援している	2カ所の協力医による往診体制を整備し、利用者は各々の訪問医の診療を受けています。従来のかかりつけ医や他科受診時は、家族と連携して受診支援を行い、結果は受診記録で共有しています。週1回の訪問看護師による健康管理も行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による看護師等への相談、身体状況の把握をして頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療では医師、看護師に適宜情報を提供し入院の必要性について判断いただいている また、入院中の状況については、医師、看護師から状況を収取できる体制はある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合にかんしては、日常的にご家族と話し合いを行っている また、医療機関とも一定の基準をもって対応している さらに、医療機関と家族の話し合いの場を設けている	入居時に重篤時における対応指針の説明と延命措置に対する意思確認を行い、同意書を得ています。利用者の意向は日々の中で傾聴し、家族からも情報を得ています。急変時は、主治医から家族に今後の動向を説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議での応急処置の方法についての検討 災害時の避難の方法について会議などで話し合っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難訓練の実施 避難場所の提供に関する協力を得るようにしている	毎年、日中・夜間想定避難訓練を行い非常時に備えています。一時避難場所は近くの保育園に協力を要請しています。非常時の持ち出しや飲食料、生活用品を順次用意し、発電機の購入も検討しています。	事業所周辺の危険度の再確認と、緊急連絡網への地域住民の登録要請、入浴時等のケア場面での対処法、噴火を含む自然災害時のシミュレーションや実践的訓練の取り組みに期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格などに配慮しながら対応するよう心掛けている 職員の声掛けなど問題あれば都度改善するよう対応している	施設長や管理者は、適切なケアのあり方を職員に伝え、都度注意喚起を促し、正しい理解に導いています。申し送り時は、固有名詞を使わず、個人的な書類は、適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の要望には耳を傾けるようにしている また、ご本人がどのようにしたいかをよく聞き必要があれば実現できるよう援助する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	施設側のペースを優先しがちであるが、ひとり一人のペースを大事にし過ぎていただくようになっている 指示的な行為に対しては都度改善していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向などを大切に、身だしなみや整容に留意している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただくように考えている 食後の後かたづけ等も積極的に行って頂けるよう対応している	菜園の多種多様な野菜を活用し、調理専門職員による食事を利用者は毎日完食しています。誕生日はケーキでお祝いをし、行事では回転寿司を持ち帰ったり、おやつはお好みを用意し、時には利用者が餃子を作りホットプレートで焼いて食べるなど、食の楽しみを工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分の管理を行っており、必要に応じ、医師、看護師に報告している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している 自分で行えるよう支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するようにしており、出来るだけトイレにて排泄できるよう支援している オムツをされている方でも可能な限りトイレでの排泄に取り組んでいる	自力排泄や2人介助など利用者の状態を把握し、日中帯は、利用者全員がトイレで排泄できるよう取り組んでいます。利用者や家族から衛生用品使用の要望がある場合でも、ぎりぎりまで現状維持の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況の把握に努めるとともに便秘予防に努めている 運動、水分、食事、服薬など対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	概ね週2回の入浴日は一定にしているが、他の時間帯にも入浴できるよう対応しているが難しいこともあった	週2回を目途に入浴支援を行い、入浴に対する要望に応えられるよう努めています。拒否がある場合でも声かけの工夫等で入浴に繋げ「いいお風呂だった」の声が聞かれています。入浴日は、皮膚の変色など身体状態を観察する機会にもなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ひとり一人の入眠時間に配慮している 夜間の睡眠が妨げられないよう、夜間の介護は静かにするようにしている 日中帯の休息も自由にどこでもできるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容についての理解を深める また、服薬の状況確認と支援が必要な場合は対応している 全体会議などでも話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ日常生活での役割を持っていただくよう配慮している 掃除や整理整頓、縫物など行って頂いている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や、畑での作業など取り組んでいただいている 帰宅願望などもご家族の協力を得ながら外出につなげている	三密を避けたドライブを企画し、市内や近郊を巡り、車内でソフトクリームを楽しむなどしています。事業所周辺の散歩、花畑や野菜畑の手入れ、駐車場で花火大会など現在できる支援を行い、気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は概ね施設にて対応 ジュース等はご自分で購入できるよう対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話など取り次いだりあるいはご自分でかけたりされている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者で掃除や整頓を行っている 照明や室温などに留意し、いつでもどこでも生活出来るよう対応している 体調の悪いときでも、ホールのソファで休んでいただくなど行っている	共有空間は換気や温湿度管理、衛生、清潔、音の調節、ソーシャルディスタンスに配慮した環境を整えています。大半の利用者は季節の飾りや絵手紙、塗り絵等を掲示している居間で、椅子やソファに座り、他の利用者や職員との会話を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士のトラブルなどが発生しないように一人でも過ごせるスペースも確保している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の見慣れた家具や椅子などを家族の協力を得ながら設置するようにしている	ベッド、ナースコールを備えている居室には、レクリエーションで作成した月ごとのカレンダーや手芸作品、家族写真等を飾っています。調度品は、家族と相談して動線に配慮して設置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	支援が必要な方には付き添いなどの介助を実施 自力で生活できる方に関しては見守りを行っていく		